

日 時：平成 29 年 9 月 11 日（月）9:30～11:30

出 前 先：広陵町立総合保健福祉会館さわやかホール大会議室

受 講 者：奈良県広域消防組合職員の皆様（約 80 名）

講 師：菅野耕三先生（大阪教育大学名誉教授）

授業題目：「奈良の自然災害－備えましょう－」

奈良県広域消防組合職員研修として本出前授業を実施し、奈良県広域消防組合の職員の方々約 80 名が受講されました。講師は、大阪教育大学名誉教授 菅野耕三先生にお願いしました。

最初に各地で頻繁に発生している自然災害の事例を紹介され、災害がいつ何時身近に起こるか予測できないものであり、減災のために常に備えておくことの重要性を指摘されました。さらに、自然災害を考える上での地盤の重要性と地盤工学会関西支部の活動について紹介いただきました。

次に地震災害に関して、プレートテクトニクスの基礎、海溝型地震と内陸型地震の発生機構、奈良県下に存在する断層、過去に発生した地震について説明され、安政大地震でも奈良県内において被害の記録が残っており、将来の東南海地震においても被害が生じる可能性を指摘されました。さらに、地震災害の複合災害としての側面、長野県白馬村や兵庫県北淡町等の事例にみられる自主防災組織や近隣住民間の共助の重要性、クラッシュシンドロームや通電火災への対応など阪神大震災時の重要な教訓を紹介いただきました。

続いて、奈良県北部と南部における地質の相違、奈良盆地にみられる沖積層における液状化被害の危険性、ため池堤体の耐震性の問題、丘陵地における盛土や切・盛土境界、流れ盤構造における危険性など、地質や土地履歴の観点から地震災害や地盤災害について説明いただきました。また、奈良県で発生した過去の西吉野村和田地すべり災害や国道 168 号宇井地すべり災害や宇井地すべり災害といった地すべり災害、地名と地すべり被害の関連等についても紹介いただきました。

豪雨災害に関しても解説いただき、マンホールや側溝からの水、アンダーパスの危険性を指摘されるとともに、道路に水が溢れている場合には避難が危険であることを強調されました。

最後に先生は、我が国の自然美は厳しい気候や自然災害によってもたらされていること、命を守るために自らが判断する自助、およびご近所同士での共助の意識が最も重要であることを強調され、講演を締めくくられました。

文責：乾 徹（京都大学）

